HSP の特性による共感的羞恥への影響について

1230468　下山莉歩
指導教員　日道俊之

研究背景

HSP は共感することに長けている、周囲の環境からの影響を受けやすいなどの特性を持つ、ひとつの個性である。これは他者と感情を共有するという点で、他者に感じる羞恥感情である共感的羞恥にも関係があると考えられる。また、心理的距離が近いほど共感的羞恥を感じやすいことから、共感的羞恥を喚起する状況において、他者との心理的距離と HSP の高さが関係していると予想される。

研究目的

「HSP が高い人ほど共感的羞恥を感じやすい。また、HSP と心理的距離は交互作用が見られ、心理的距離が近い対象では HSP の高低により喚起される共感的羞恥の強さに違いが見られる一方で、心理的距離が遠い対象では HSP による違いは見られない」という仮説を検証し、心理的距離の違いによって異なる共感的羞恥に対して、HSP が調整効果を持つことを明らかにする。

研究方法

Qualtrics で調査票を作成し、Web 調査を行った。回答者を 3 群（HSP 低群・HSP 中群・HSP 高群）に分け、3 つの心理的距離（行為者が親・友人・知らない人）ごとに提示された状況に対して、どのくらいの恥ずかしさを感じるか、群間比較を行った。

分析結果

相関分析の結果、行為者が親、知らない人のとき、HSP の高さと共感的羞恥が喚起される強さに正の相関が見られた。分散分析の結果、HSP の高さのみ主効果が有意であり、HSP と心理的距離の交互作用は有意でなかった。重回帰分析の結果、各心理的距離において HSP の下位因子（低感覚閾・易錯乱性・美的感受性）はそれぞれ単独で共感的羞恥に有意な影響を与えていなかった。

結論

分析結果より、行為者が親、知らない人のとき、HSP が高い人ほど共感的羞恥が喚起され、「HSP が高い人ほど共感的羞恥を感じやすい」という仮説を一部支持した。また、HSP の高さにより喚起される共感的羞恥の強さは異なったが、心理的距離による違いは見られなかった。加えて、HSP による共感的羞恥の差は心理的距離により変わらなかった。ゆえに、「HSP と心理的距離は交互作用が見られ、心理的距離が近い対象では HSP の高低により喚起される共感的羞恥の強さに違いが見られる一方で、心理的距離が遠い対象では HSP による違いは見られない」という仮説は支持されなかった。